「『ＳＴＯＰ！いじめ』紙芝居」読み聞かせ上演会　指導案

授業のねらい：①いじめの被害者・加害者の気持ちを理解する。

②仲間を大切にし、いじめをしない・させない心を育てる。

|  |  |
| --- | --- |
| 内　容 | 留意点など |
| 中高生が進行する  １　挨拶  「みなさん、こんにちは。〇〇中学校（高校）の〇〇です。」  「今日は、私たちが創った紙芝居「とびだしたスーパーボールちゃん」をみなさんにお見せします。どうぞよろしくお願いします。」  ２　ウォーミングアップ  「ところで、みなさん、これが何か分かりますか？」  （予想される小学生の答え）  ・「カンカン」って鳴らす木  ・戦いのときに使う木  ・でっかいお箸　　　など  「火の用心！」  【拍子木を２回鳴らす】  「聞いたことありますか？　昔から『火の用心！』の時に使っている音を鳴らす木です。」  「これを、拍子木（ひょうしぎ）と言います。」  「拍子木は、他に歌舞伎の舞台とか、今からやる紙芝居でも使います。音を鳴らして合図をし、人の注意を引くためのものです。」  「それでは、紙芝居を始めます。紙芝居に出てくるスーパーボールちゃんやキャラクターの気持ちを考えながら、楽しんでください。」  ３　紙芝居上演（１回目）  「みなさん、スーパーボールって知っていますか？」  「こんな感じで、よく跳ねるボールです。」　【実演】  「今からのお話は、このスーパーボールのキャラクター、『スーパーボールちゃん』が主人公のお話です。」  「さあ、眠たい人は目をパチパチして、背中がかゆい人は背中をポリポリかいてから」  「それでは、紙芝居の始まりです」　【拍子木たくさん】  （紙芝居の内容に入る） | 《準備物》  紙芝居、拍子木、スーパーボール  （１分）  全員が挨拶する  （５分）  拍子木を見せる  小学生が答えたら肯定的に反応する  ・「なるほど～。」  ・「そうだねぇ～。」など  黒板に「ひょうしぎ」の文字を書く（または、「ひょうしぎ」と書いた紙を貼る）  （10分）  スーパーボールを跳ねさせる際、周囲に当てないように気をつける  拍子木を鳴らし、紙芝居に注目させる |

|  |  |
| --- | --- |
| 内　容 | 留意点など |
| ４　小学生に感想を聞き、趣旨を伝える  「みなさん、いかがでしたか？　少し感想を聞いてみたいです。言える人、手を挙げてください。」  （予想される小学生の感想）  ・スーパーボールちゃんの冒険みたいだった  ・タコさんの場面がおもしろかった　など  「ありがとう。みなさん、この紙芝居を見て、いろいろ感じてくれたようで嬉しいです。授業の最後に、感想を書いてもらう時間をとるので、感じたことを書いてくださいね。」  「今、みなさんに見せた紙芝居は、実はいじめがなくなってほしいなと思って創った紙芝居なんです。みなさん、どこがいじめの場面だったかわかりましたか。」  ＜いじめの場面①＞  ・３枚目：スーパーボールちゃんがバスの中で友だちから嫌なことを言われる場面  「そうそう！スーパーボールちゃんがバスの中で友だちから嫌なことを言われる場面です。」  「まず、スーパーボールちゃんに嫌なことを言った友だちの気持ちを考えてみましょう。友だちは、スーパーボールちゃんがバスの中で跳ねてたから、  『スーパーボールちゃん、跳ねないでよ！』とか  『やめてくれよ！ふざけんな！』とか  『おまえ、跳ねすぎて、むかつくんだよ！』と言いました。  この友だちはどんな気持ちだったんでしょう？」  （予想される小学生の答え）  ・バスの中だから、跳ねてほしくなかった。  ・スーパーボールちゃんが、ふざけているように思った。  ・跳ねていることが悪いことだと思った。　など  「友だちは、スーパーボールちゃんがバスの中でわざとふざけて跳ねていると思っていたかもしれませんね。そして、自分が言った言葉で相手が嫌な気持ちになることに気が付いていませんでした。」  「次は、スーパーボールちゃんの気持ちを考えてみましょう。友だちから嫌なことを言われたスーパーボールちゃんはどんな気持ちだったと思いますか？」  （予想される小学生の答え）  ・「むかつく」って言われて嫌だった。  ・跳ねすぎてしまうのは、どうしようもないのに。　など  「そうですね。スーパーボールちゃんは、友だちの言葉で嫌な思いをしたと思います。」　など | （10分）  小学生数人に聞く  紙芝居の各場面を印刷した用紙（12枚）を貼る  《いじめの場面》  ①３枚目：スーパーボールちゃんが嫌なことを言われる  ②７枚目：スーパーボールちゃんが嫌なことを言う  ③８枚目：スーパーボールちゃんが嫌なことをされる  【加害者の気持ちを考えさせる】  小学生数人に聞く  加害者が、悪気なく言ってしまうことや、自分の行為が相手を傷つけるいじめと思っていないことに気付かせる  【被害者の気持ちを考えさせる】  小学生数人に聞く |

|  |  |
| --- | --- |
| 内　容 | 留意点など |
| 「もう１ついじめの場面があります。どこかわかりましたか。」  ＜いじめの場面②＞  ・７枚目：スーパーボールちゃんがタコさんに嫌なことを言う場面  「嫌なことを言われたスーパーボールちゃんでしたが、タコさんには、『へたくそね』と嫌なことを言ってしまいます。  タコは顔を真っ赤にするほど怒るのですが、スーパーボールちゃんは自分が言ったことでタコさんがそんなに怒ると思っていませんでした。  さっきのスーパーボールちゃんの友だちと同じことをしてしまっていますね。」  「みなさんも同じようなことありませんか？  そんなつもりじゃなかったのに友だちに嫌な思いをさせてしまったとか、友だちはそんなつもりじゃなかったけど、あれは嫌だったなってことがありますよね。」  「私たちは、スーパーボールちゃんに嫌なことを言ってしまった友だちや、タコさんに嫌なことを言ってしまったスーパーボールちゃんのように『いじめている人が、いじめていることに気づいていない』ことがあると思って、この紙芝居を創りました。  　この紙芝居を見て、もしかしたら、自分の言ったことや、やったことが『いじめかもしれない』という思いを持ったり、いじめられている人を助けたりできるようになってほしいと思います。」  「さらに、もう１ついじめの場面があります。どこかわかりましたか。」  ＜いじめの場面③＞  ・８枚目：スーパーボールちゃんが魚に嫌なことをされる場面  「スーパーボールちゃんは魚にくわえられるという嫌なことをされます。スーパーボールちゃんは『食べないで―！』と自分の意思を伝えます。このように、嫌なことをされた時に『やめて』と自分の気持ちを伝えることはとても大切なことです。」  「では、最後にもう一度、紙芝居を読みます。みなさん、スーパーボールちゃんや友だち、出てくる人の気持ちを考えながら見てください。」  【拍子木たくさん】  ５　紙芝居上演（２回目）  「さあ、眠たい人は目をパチパチして、背中がかゆい人は背中をポリポリかいてから」  「それでは、紙芝居の始まりです」　【拍子木たくさん】  （紙芝居の内容に入る） | ※いじめの場面②及び③は、クラスの状況や授業時間により、いずれかを選択したり、別の時間に取り上げるなど工夫する  （10分） |
| 内　容 | 留意点など |
| ６　まとめ  「ありがとうございました。これで、紙芝居を終わります。  みなさん、友だちを大切にして、みんなで毎日楽しく過ごせるようにしてほしいと思います。では、プリントに感想を書いてください。」 | （7分） |